

第7回旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会会議録

日 時 令和元年11月14日(木)午後3時

場 所 久世エスパセンター学習室

出席者

委員)岡山理科大学工学部建築学科教授 江面嗣人、まにワッショイ代表 岡本康治、東京大学生産技術研究所教授 腰原幹雄、清水塾塾長 清水慎一、真庭観光局地域マネジメント部マネージャー 眞柴幸子、元真庭市文化財保護審議会委員 森上知洋、シネマニワ代表 山崎樹一郎、岡山ヘリテージマネージャー機構美作地域会 山崎真由美、真庭市副市長 吉永忠洋

事務局)生活環境部長 澤山誠一、教育委員会教育次長 綱島直彦、スポーツ・文化振興課長 大塚清文、生涯学習課長 佐山宣夫、スポーツ・文化振興課参事 岩野哲治、生涯学習課参事 森俊弘、スポーツ・文化振興課主幹 岩藤容子

大塚課長)

それではただいまから第7回旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会を開会します。

本日は、奥山副委員長、井上委員、遠藤委員が所用により欠席でございます。本日の出席委員9名で会議を開催させていただきます。県の教育庁の横山参事も今日は欠席でございます。

本日の資料の確認ですが、皆様ありますでしょうか。それから、事前に資料を送らせていただくにあたり、提言書案が直前となりましたこと、お詫び申し上げます。失礼いたしました。それでは、開会に先立ちまして江面会長からご挨拶をいただきたいと思っております。

江面会長)

こんにちは。今日、タイトルを見ますと第7回となっており、もう7回もやったのかとちょっと驚いているのですが、皆様方委員の皆さんにご意見をいただいて、どうやらある一定の着地点に着地できそうかなと思っております。特に文化財の旧遷喬尋常小学校の校舎の保存はもちろんですが、活用ということを中心に皆様方にご意見をうかがってきたと思っておりますが、前回もお話をしたと思っておりますが、保護法が変更になり、平成29年から検討が行われ、いわゆる各県、都道府県で文化財保存活用大綱を作ると、それに基づいて市町村がさらに計画を作って、ある一定の権限を市町村に与えようと、そのようなことを文化庁で考えている。私も県の保護審議会の委員になっていろいろ意見も言わしていただきましたけども、岡山県についてはこういう形で(冊子を見せながら)できています。ウェブ等で確認ができると思うので是非見ていただきたいと思っております。ただ、この会議でいろいろと議論していただいて、私が非常に好ましいなと思っております内容があるわけですが、実は、基本的にそういうところが、この大綱には漏れている、何が原因かと言うと文化庁そのものが不完全である、と私がそう言わざるを得ないのかと思っております。全国に出回っている、いわゆるこの大綱を作るためのマニュアルといったものが不十分であると思っております。そのことも踏まえて、これまでいろいろ文化財の活用ということで、この会議では議論してきた訳ですけども、私が考えている活用の方法というか、よく言われる言葉ですけども、人づくりとか、そういうところに終局すると思っておりますけども、どうもまだまだ、曖昧な地域づくりとか、文化財は観光のためにあるとか、そういった言

葉がおどっているというのが不思議に思う訳です。まだまだこれから市町村に降りてくる
ときに、市町村でももう少し明確に考える必要があるのかなというふうに思っています。い
ずれにしても国はこの各県の大綱を持ってしてこれからの保存、活用といった次の時代を
迎えつつある。私も前に話したかもしれませんが、25、26年来文化財の保存では
なく活用について学問にすべくということ考えてきました。私が生きているうちは、お
そらくそういうことはないだろうと思うのですが、明確にそれはテーマになることはない
んだらうと思っていましたけども、一応こういう形で国のほうも大綱という形で、一つの
大きなテーマにしてやっていこうとしているようですから、非常に期待できるところある
なというふうに思います。繰り返しになりますけども、まだまだ考えるところがたくさん
あると思いますので、今日も皆さん方に意見をいただきたいのですが、最終的にはやはり
単なる思想とか考え方があるのはもちろんですが、具体的に何をするのかということが、
どうもいつもまとまらなくて、大方のこういう報告書がどうあるべきかというようなこと
は書いてあるのですが、実は具体的に何をするのかということは話が出てこないという
か。今日はできれば、そういうご意見も皆さん方からいただきたいと思っています。一応、
基本的には今回が最後の委員会ということですから、皆様方からそういった形で、今後ど
ういうふうにするにかとといったことを中心にご意見がうかがえればいいかなと思ってい
ます、忌憚のない意見を是非お願いしたいと思います。では事務局、よろしくお願いします。
大塚課長)

ありがとうございます。では報告事項に入りたいと思います。これよりの進行を江面委
員長をお願いしたいと思います。

江面委員長)

では、最初に報告事項として第6回委員会のまとめについて、そこからお願いします。
事務局)

資料1について説明

江面委員長)

前回の委員会の意見についてまとめてもらいましたが、修繕方法についていくつか
意見をもらい、大方、前回以前は活用として使っていくために、給食の作れる場所をと
か、いろんなご意見があったんですけども、前回でそれに対して、かなりお金がかかる
というようなことがあり、そういうことであれば一括してやってしまうのがいいの
ではないかというような意見にほぼまとまってきたのかという気がします。

それから、どういうふうに使っていくかということも文化庁と協議して、できるだけ
使える方向で何か考えていく、工事は一括でやるということになるかもしれないけども、
その中でも何か使えることがあれば文化庁と相談して、考えていく。今後の活用の
方法については、これから詰めていかななくてはならないというふうに思います。
A、B、Cの案が出てきましたが、必ずしもそれで固定して何かするというのではなく、
いろんなやり方があっていいのかなと思います。そのような意見も出たと思います。
ご意見等がありますか。

無い様ですので、また途中で気づいたことがあれば意見に含めていただいて結構
ですので、よろしくお願いします。では、次に第2回のワークショップについて説明
をお願いします。

事務局)

資料2について説明

江面委員長)

以前にこういったワークショップをやったらどうかと、やっていくべきだのご意見をいただいて、事務局の方でこういった形でやって2回目になりましたけども、開催をした。第1回をやったときにご意見をいただいて、もう少し地元の方々に動いていただいて、外部者ではなくといったご意見もいろいろいただき、詰め方とかやり方とか、市民に何を投げかけるべきか等々、ご意見をいただいたところですけども、今回は以前と同じような形式で進めていただきました。いろんなご事情が市の方にもあるでしょうけども、いろんな方の意見を利用して、それについては、実際にどういった意見が出てきたかというのもペーパーにありますので、そこでは観光の重要性といったこととか、学びの場、一通り市民の方々からもこういったことが大事だというようなことが、検討していくべきことを含めてご意見をいただいたところですが、皆様方からご意見や質問はいかがでしょうか。今後、委員会は終了してまた次のステップに移るのですが、そこでもワークショップとか市民への働き掛けは基本的はやっていかなくてはならない。今回の提言書のまとめにも、骨子の一つにはそういうこともあるんだと思う。今回こういった形で進めて、事務局の方から反省とか、良かった点等があれば報告をお願いしますか。

大塚課長)

前回、委員会で色々のご意見もいただき、進め方について岡本さんとも相談させていただきましたが、2回目はもう1回やってみようということでもあり、事務局として進めさせていただきました。第1回目の中身からは内容が変わり、直接、旧遷喬尋常小学校の保存と活用について、皆さまからの意見をいただきました。保存と活用をどう考えますかということの意見をいただきました。そのことについて、なぜあなたはそういうふうに思っているんですかと問いかけて進めていきました。こういうふうに考えるから、私はこうなんですと、来られている方に考えていただくことに重き置いたものです。いろんな意見が実際に出てきました。シンボルなので残すのは当然だとか、先人の方々がここまで残してきたものを次世代、未来につなげていきたいというような思いとかを語られる方もいらっしゃいました。この場所を発着点にしてバスターミナルのようなものになったらどうか等思いがけないような意見も出たりしました。いろんな人の意見が聞かれて、一つにまとめるということだけでなく、いろんな意見を皆さんが共有して、こういうふうに思っている人がいるんだなと感じられたのではないかと思います。

このワークショップをまとめとしてはしておりませんので、意見が出たところからみんなが考えていけたらと思います。このワークショップはここで終わりますけども、来年度以降も皆さんの意見を聞く機会をいただいて、もっともっと盛り上げていくというか、旧遷喬尋常小学校をみんなに知っていただいて、意識を持っていただきたいと思っています。

江面委員長)

事務局としては、質問事項の中に①と③と⑤で質問事項が出ている訳ですけども、いろんな意見が出てきて、参加者に考えてもらう機会としたようですが、進め方について更に今後行う必要もあると思いますが、岡本さんいかがですか。

岡本委員)

先ほど大塚課長が言われましたように、相談を受けましたが、前回参加した方と一緒に話したんですが、お願いは既にしてあるということだったので、じゃあ2回目はその方に気持ちよく喋って帰ってもらうことをミッションにしようということにした。こっちに向けてくれている人に波風立てるのじゃなくて、気持ちよくしようモチベーションを上げた。自分は2回目に参加できなかったのだが、もう一人参加した彼にお願いをして、やる

にはやったが、それが届いていない参加者とはちょっとやりあったとも聞いた。外からの目はもちろんありがたいのですが、これだけ何回も、今日で7回目でもありますし、みんなで考えてきているメンバーがいるので、例えば眞柴マネージャーとかにコーディネートしていただくとか。世界の山崎樹一郎さんになってもらったり、町の人がコーディネートできるような流れになっていけたらいいなという風に思いました。

江面委員長)

町の人を中心になってというか、話し合う人たちも当然、町の人だけれども、これを進めていく側というか、問題意識を投げかけていくのも町の人というか、外部で突然来て多少の事情を聞いて進めることよりも、本来、これまでの議論の内容等々、関わっていた人が聞いていくというか投げかけていく、そういったことが大事なんだろうということだ。山崎さんどうですか。

山崎 樹委員)

岡本さん、参加していたと思ったのですが。雰囲気はどんなだったのかなというのが気になります。1回目の時も聞いたのですが。資料を見ると、個人が思っていることがわあっと上がってきて、それがどれくらいこの資料に吸い上げられたのかということ、感覚的などころでいいので聞きたいなと思います。

江面委員長)

議論が高じてくると、結構みんなやろうとしていたというのか、雰囲氣的なことで感じたことがあれば。

大塚課長)

班それぞれ分かれてなので、全ての班のことはわかる訳ではないですけども、高校生もいらっしやったので、すごく高校生が真剣に考えてくれるなというところはわかりましたし、すごく斬新な、年寄りには無い意見もいただき、年の上の人の意見も聞けたと言ってくれていた。それは良かったと思いますが、岡本さんからはありましたけども、先生との意見の食い違いというか、そういったことも確かにあって、思いがぶつけられたということも1つは感じた部分もありましたけども。

山崎 樹委員)

ぶつかった原因はなんですか。

眞柴委員)

先生の落としどころが、参加していても全く分からなかった。結局、ファシリテーターが、あなたはなぜそう思ったのかということのリフレーニング、何回も聞いてこられたんですね。こう思ったからと答えるんですけども、突き詰められた感じに受け取る感じになっていくんです。突き詰められた参加者は、何だったんだという嫌な気持ちになった方もあったのではないかなと思うんです。結局、最終的に先生がまとめてくださったらよかったんですけども、最後に班で、何だったんだろう今日のは、と言ったときに、多分、先生は一人ひとり思いがあって、一人ひとりの思いは違うんだよっていうことを明確にしたかったんだろうというようなワークショップだった。たくさんの方の意見は一つにまとめられないよということと認識して帰ったんです。最初はいい雰囲気だったんですけども、最後がなんだか分からない感じでした。

岡本委員)

2回じゃなくて、まだ何度も来ようという雰囲気があったような気がします。

眞柴委員)

だからあれではできないなという感じで終わったのだらうなって思います。今回で終わりですとは言われていました。

腰原委員)

ファシリテーターのまとめは無かったんですか。資料に参加者の意見はあるんですけども、ファシリテーターはその場でどういう風なまとめをされたのかというのが一番興味があるんですけど。

眞柴委員)

無かったです。

江面委員長)

最初に説明も恐らく無かったんでしょうね。

眞柴委員)

最初は一連の流れの説明はありました。先生の思いと違う方向に流れていったんだろうと思います。どこでどう戻そうというのがあった感じだ。

大塚課長)

時間も無かったこともあるんですが、どうしたらよかったのかという感じはしたと思います。ワークショップのまとめとしてはできていなかった感じはします。

江面委員長)

難しいですよ。岡本さんが言うようにここにいるメンバーが参加してというか、ファシリテーターにこの委員会のことと全く違う流れになられても困る。

大塚課長)

今回はいろんな意見が出るのは分かっていたので、皆さんに考えていただくということも一つの目的だった。まとめという形は難しかったのではないかと思います。

江面委員長)

内容が重い案件だから、なかなかこれをまとめるというのは難しいと思います。来た人にも意見が違うんだよねというだけでは、1回1回のワークショップで何か持って帰ってもらう、考え方を帰ってもらうという1回1回の積み上げが大事かなと思っています。清水先生、これまでもご経験のある中で、いかがでしょうか。

清水委員)

観光協会を抜本的に変えて、真庭における観光のあり方を底辺から見直そうということをや、4、5年前ぐらいから取り組んだ、副市長からも提案を受けた。では、それなりのワークショップもやろうと2年間やったんですけども。私はこれまで全国、何十か所とやったかわからないですが、基本は、まず大きな方向性を示さないと、ともかく色々考えてよではだめです。私は、こういう方向であるべきだということを、本来なら委員会で議論した上でまとめる、観光の場合はそれをやりませんでした。私がそれを提示するという形で、私の考え方を何回かお話し、こういう方向でやっていくと、こういう方向でやっていくと理由をつけて、じゃあ具体的にどうするかを、基本的考え方、憲法、基本法はもう分かったと、問題は具体的な考え方。憲法、基本法では旅行会社主導ではなく市民主導なんだと、住民主導なんだと、単なるイベントとか、ゆるキャラとかB級グルメとかではなくて、市民が来訪者と一緒に楽しむプログラムなんだと、いうようないくつかの基本的な考え方を。これは一般論だ。問題はそれを具体的にどうするんだということで、じゃあワークショップしよう。この考え方にある程度賛同していただいた方にお集まりいただくということをや基本にした。その結果として百数十人の方が集まって、すごい議論になった。5回か6

回、ふた月に1回やりました。まず全体的にどういうふうに進めて、どういう落としどころに持っていくのかということファシリテーターは整理して事務局と腹合わせしておく。それで先ほどありましたように、その辺のストーリーをちゃんと第1回で説明しながら、毎回もその場の議論でなく事前レポートを課す。事前にレポートを書いてきてもらって、それを持ってきてもらって議論する。その場のぶっつけ本番でなく。レポートに従ってやっていく。逆に言えばちゃんと考えて来ない人は参加出来ないことになる。当然のことながら色んな意見が出ますけども、それを必ず5つ位の大きな柱にまとめる。まとめられる。逆に言えば100あった議論のうち、自分がいいなと思ったものを5つまとめればいい。それを繰り返していくことで、最後の落としどころである観光協会は変えよう、今のプロモーションのやり方を変えよう、今のホームページの作り方を変えよう、今の観光の担い手は少し変えていこう、というふうに具体的に出来て昨年の真庭観光局の発足ということになった。私は真庭のことは知らなかったが、それなりのワークショップのやり方があり、その辺はちゃんと示してあげて、何のために来たのか、あるいはこれによってどういう自分たちにメリットがあるのか。そうしないとみんな来なくなります。いわゆるワークショップ疲れ。何でもかんでもアリバイ証明のワークショップには、みんな疲れている。それをどうやって自分たちが主体なんだ、自分たちでやっていくんだというところを持っていく。これがワークショップの一番のやり方なんです。言いにくいことをはっきり言えば、行政の方たちがワークショップを計画すると、その辺のストーリーも落としどころも明確ではなくて丸投げしてしまう。丸投げをされたファシリテーターは考えるんですが、ちゃんと言えらるファシリテーターばかりではない。きちっと組み立てても言うことができない、或いは誘導することができない、その辺の力の問題はあると思う。お前はどうかと言われれば、客観的に誰かが判断してくれればいい。そういったものを踏まえてやるのがワークショップ。私は7月の時もこのワークショップはやめたほうがいいんじゃないかと盛んに申し上げたのは、そういうところ。ついでに言うと、この委員会で概ねの方向は決まりました。ここにも書いてあるとおり、市民が主体的にかかわりあうことができるシステム作りが重要であると、全くそのとおりです。問題は一つは場の確保です。ワークショップもそうです。まとめ役は誰がするんだと、3つ目に具体的に活動の優先順位、そういったものをしていかなければならない。場はいくらでもできるが、問題はまとめ役。いつまでも外の人に頼むわけにはいきません。お金がかかる。ある段階で地元の人をお願いしなくてはならない。私は1年目を見ていて、岡本さんとか眞柴さんとかちゃんとやる人がいる、こういう人に任せようと決めました。それでもどうしても私に頼ってくるんで、ドタキャンして突然風邪ひいて休むんです。岡本さんやっておいてというふうに、育てたんです。そういった人たちが今の観光の担い手になっている。それがプロであったり、専属的にやっている人でなくても構わない。人の意見を引き出すことができ、人の意見をまとめられるような人だったら、別にプロでなくていいんです。その辺を含めて、この提言を受けた後の課題、場の問題はいくらでもできる。二つ目はそのまとめ役、事務局。多くの場合、行政になりますけども、ある段階で行政から、徐々に法人の後ろ側に下がっていただいて、民間のしかるべき人たちにまかせないとだめです。行政の人は人事異動がある。行政は災害があればそれもやらなくてはならない。やらなくてはならないことがたくさんある、行政の人は。基本的には行政でなく民間主導。その形態にもっていかなくてはならない。最後にそういったものに予算をつけて、どういう優先順位でやっていくのか具体的に集約する。この3つが大事なポイントになるんじゃないかなという気がします。

江面委員長)

ありがとうございました。非常に勉強になったと思いますし、これからのやり方、そういう方法をきちっと示していただいた。また事務局でしっかりまとめてですね、ポイントを理解していただきたい。特に先生に言っていただいた内容で、住民主体というものがあるが、これは僕が文化庁にいたときに、街並みの保存とかというときに基本的には住民主体であるべきだということがあって、ところがなかなかそうはなっていない。文化財保護、保存そのものも主体、主体と言ってるが、今、全くそういったふうになっていません。岡山県文化財保存活用大綱ですが、これも参加と書いてある。有るものに参加する。主体ではない。だけどそれを、活用の主体を市民にしなくてはならない。市民が行政の作ったものに乗っかって参加するのではない。だからワークショップそのものも主体性を持ってやらなくては、本来ダメです。正に清水先生に言っていただいたように僕も行政と市民の関係というのは、最初は行政が引っ張っていく、最終的には行政が黒子のように見えない形になって市民が表へ出る。だけど市民にはそれだけの力がなかなか無いことがありますので、行政は黒子のようになって後ろから支えていく、そういうやり方をしないと市民が育っていかない。いつまでたっても行政が何かして、特にどこかの先生を引っ張ってくるといふか、全くわからない先生を引っ張ってきて話をしてもらおう。確かにそこでは、こうやったら成功したよというのはあるのだけれども、必ずしもその成功体験がそこで役立つのかどうかは別の問題だ。だから大事なのは、そういうやり方で成功したよということではなくて、1回は大先生が言ったことでうまくいったとなるかもしれないが、大事なのはそこで、それが解決したということではなくて、それを自ら解決できるような能力を市、行政、市民が持ち得るかが大事なのであって、清水先生が言ってくださった中に、育てるといふことがあるが、要はあらゆる手段を持って住民を育てるか、その住民というのは行政も含めて育てていく、形にしていく。僕は文化財というのは、最初にも言ったように人づくりということとは、こういうものを契機として、恐らく清水先生が専門の観光もそうだと思うが、観光そのものが大事ではなくて、観光によって育つ人間というか、そのシステムが大事なのであって、手段であるというか、文化財は基本的には、手段だと思っています。文化財保護法に書いてある。保存し活用を図り、もって文化財的振興に資すると書いてある。活用して、保存しては手段であって最終的な結論ではないです。ですからワークショップも含めてそういう形で進めていただければと思います。僕がちょっと気になっているのは、やはり最終的にワークショップで議論して何かを得ていく、それぞれが考えていくことがあるんだけど、一定の知識というか来た人に、毎回毎回来た人が飽きてしまうというかでなく、ワークショップに参加したらいつもこんな新しい考え方とか、知識が得られるよねといったサービスもしていかなくてはならない。そのようなことも考えています。清水先生が言われたレポートを事前に考えてきてもらおうというか、そういう広がりがないと行き当たりばったりになってしまうこともありますので、その場を作るといふか、今回のまとめ役も含めて、今回の提言書も最初に私が言いましたように具体的に何をするのか、何ができるのかということをししないと、こんなこと大事だというのは市民の皆さんも判る。けども具体的に市民がどうやって自分のものにしていくことができるのかといったことを考えておく必要があるのではないかと思います。腰原先生他にありませんか。

腰原委員)

僕は前向きな人間ではないので、役所側の人から見た時に、こういうワークショップをたくさんやりたいのは、こういう会議だけでやると偏った意見になるので、陰でくすぶっているとか反対側の人がいるんじゃないかと考えて、予防策としてどうなのかなというふうに思ってしまうんですけども、自分が現場にいないので嘘かもしれませんが、僕がファシリテーターだったらこの町は、こんなに元気な人がいて岡本さんとか、みんなで引っ張ってくれる人がいるんだから、その人たちが引っ張ってくれて語ってくればいいですよねと言って褒めて帰るか、逆にこんなに元気な人がいるけども大丈夫ですかね、裏で本当はやりたいですけども、元気な人たちが居過ぎて、自分たちが本当はやりたいことがあるのに、やりたい人がくすぶってないですかね、そういう人たちの意見をくみ取りましょうよというのか、その2つのような気がします。前向きに走っていくためには、この人たちはどんどん前に行きましょうと言う反面、この人たちだけに偏っているとまずいこと起きないかなというもやもやがあると思うんです。だから本当はそういう話なんだけど今の段階だと暴走しなくてはならないのが、真庭の現況ではないかという気がする。元気でやろうとっている人たちの足を引っ張ってまでやるような状況ではなくて、暴走してもいいからどんどん前に進んでもらって、それこそ行政の人は黒子になって、くすぶっているものを早めに見つけて、その人たちもフォローするというのが仕事で、最初からこっだけ別グループ作って、対抗馬作って盛り上がるというのは、人数的にもエネルギー的にも大変なので、どこまでかは期間はわからないですけども、頑張っている人たちが頑張ろうとしていることをどんどん後押しして、その代わりにその人たちが目配りし損なっているところを行政の人たちが、ときどきこういうワークショップをやって不満をくみ取っておいて、対策を作るといったこともやる必要があると、僕は思っている部分もあるので、何となくこうやってやると平均的回答で、無難な答えが出ますというのになるんじゃないかと、今回はこっちに暴走しましたね、前回こっちに暴走したけど本当にあれでいいですよねというようなことを両幅的にやるというのものもあるかもしれないし、とりあえず今みんなでこっちに進みましょう、文句のある人は後でこっそり来てくださいというようなこととか、両極端なものやっつけていかないと最初からみんなも平均的な答えを求めて、みんな文句が出ないような仕組みを作りましょうというのは難しいと思うので、その防御にあるのがこの会議で、最悪、この会議で決まったことですから、まずはやってみないといけないのでと言え、言い訳の話になるわけで、一般の人たちが自分たちでやることをどうやっているいろんなことを利用しながらやるか、僕的には前向きじゃないというのは、違う意味では暴走癖があるので、突っ走っているのはまずは突っ走ってみるというのをやってみないことには、成功するか失敗するかやってみないとしょうがない。ここでの中身もそうだし、ワークショップの中身もそうだし、今日の発言を聞いていても、まず暴走して楽しんで使ってくれる人たちがどんどん楽しそうに使っているという風景を見せるという風に走りましょうよというのがいいのではないかと思います。

江面委員長)

ありがとうございます。腰原先生からは暴走ということばがあった。先生の指標かなと思いましたが、そのくらいエネルギーをつぎ込めるような形にもっていくことが大事だと思います。そのくらいまでいけたらいい。だけど暴走して人が傷ついたり気は付けないといけないですけども。もう1つ、先生の言ったガス抜きといったことが大事で、普段思っていることを抜きつつ進まない、どこかにわだかまりが残っていると、それがだんだん大きくなったりして、分裂となってしまうりもするので。こんなところで街並

みの保存なんかやっていると反対者が出る。その時に公開の場に連れてきて意見を言わせる。そうすると個人的な元気だけでは意見が言えないので、ちゃんとした意見を言うという。自分の心に持っているものと別ですけども、言ったことが世の中を作っていく。自分も作っていく。いろんな役割があるが元気よく放出させる手前までいくのがよかったりと思ったりしています。

他によろしいでしょうか。それでは10分休憩して。4時10分から始めます。

(休憩)

江面委員長)

それでは再開します。協議事項、提言書案の資料3の説明を事務局からお願いします。

事務局)

資料を朗読

江面委員長)

この内容が市長に対する委員会からの提言となります。最終的には最初私が言ったように、何をすべきかというところにつなげていきたいと思っていますけども、事務局が読んだ内容についてご意見、質問いただければと思います。いかがでしょうか。

腰原委員)

一番専門的なところですが、整備方針案のところ6ページ。いきなり案①、②、③とあるんですけども、前提条件が書かれていないのでいきなり分割せずという言葉が出てきても、たぶん伝わらないので、整備方針としては建物全体を一括で工事し何とか、或いは部分的に工事し何とかという方策があると述べて、どれを選択しますかということなんではないか。分割という言葉の説明なのか、なんか足りないのかなという気がしました。

江面委員長)

そうですね。文章としていきなり整備方針案と出てきてるので、前文が必要ですよ。その下の活用方針案についても、前文が必要で一応こういう風に分けられると、どういう意味でこの3つに分けたという説明が必要なんだろうと思います。前文をしっかりと考えていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。2ページの肩書は何をイメージしているのか。考えてください。9ページの7ですが、流れとして上記のとおりはワークショップのことを言っているのか。まだ議論が足りていないのが現状であるというのは、委員会のことを言っているのかワークショップのことを言っているのか、よくわからない。もしあるとしたら委員会全体のことを言っていたら、ワークショップはワークショップでこれで終わっていただいて、全体のこれからの検討をもう少し具体的に書いてもらう。まとめみたいになると思う。市長に提言となればここが一番メインなのかなと思います。もう少し、内容を入れるべきかと思います。他にいかがでしょうか。

山崎 樹委員)

基本的な考え方ですけども、5ページですが、一言であれば人づくりであるとあるんですけども、このざっくりさというのが、いままで文化財保護法にはで、文句が言えないというふうにあって、という感じがするんですけども、ずっとやって来て江面先生も言ったような、文化財というのは歴史であったり、今後100年であったり、ピリオドが考え得るところが、僕は少し文化財の本懐、大事なところではないかと思って参加していたんですが、それを結構一言で人づくりということになってしまって、なんかもっと感じてほしい、表現できないのかなと思う。

江面委員長)

ピリオドというのは、どういう意味ですか。

山崎 樹委員)

100年前に建ったものが、今後100年残っていて、100年前も考えて、今後100年先も考えるというような、文化財を考える上で、人づくり、思想だと思うんですけども、そのあたりの文化財のとらえ方が、文化財保護法の3行位で、精神面と心の豊かさというところが人づくりにつながるという、そうではあるが、時間であったり歴史であったり、そういうメッセージというようなものは入ってほしい。これだけやってきたのだからという気がする。

江面委員長)

文化財の持っているメッセージの深さ、そういったものですかね。この文は僕のどこから引っ張ってきているのかなと思うのですが、一言で言えば人づくりになる。僕の文章で言うと誰でも分かるキャッチフレーズというか、いろんなことを説明して結局分からないというのではなくて、フランクに率直にこうだよなという意味で僕は人づくりかなと思っている。しかし山崎さんの言う、時間とかそういうものの深み。

山崎 樹委員)

なんか人づくり、AはBとそのまま言ってしまったら、許されていいのだけれども文化財であったり、旧遷番であったり、持って守らないといけないものとか、留めないといけないものという感じが、時間、歴史、教育であったり、そこが表現として乗らないかなという気がした。

江面委員長)

教育もそうですよね、ここでは文化財の活用が云々というところから文化財本来の価値というか、そういうものについてはもう少し書いたほうがいい。

山崎 樹委員)

1行か2行でよい。これは読み流してしまう。

江面委員長)

僕は文化財というのは、5、6年前までは文化財は過去からの情報であると言っていたんだけど、今、それは間違っているなと思っていて、要するに現代の意味である、過去から現代に伝えられた、与えられた意味というふうに今、思っています。そういう文化財の深みというか意味するところというか、もう少しそういうところを深める必要があるというふうに思うのですが、その辺の深さを言葉でもう少し。

吉永委員)

実は似たようなことを考えていて、私ども総合計画を作って5年間、行政側が実際にこれをしていくためにという意味なんですけど、5年前、真庭ライフスタイルということを出して、最初は意味が分からないと言われてたが、段々それが、やっているうちに意味をみんなが察して行って、一つの言葉として成り立つ。たった100万年の贈り物というのを観光局が考えてくれていた。そこを議論していたらやっぱりたった100万年の贈り物だと、行政の中で今日も議論していたし、そういう言葉がたぶん要るんだろうと思っています。その話は、山崎君が言った話だと思っていて、市長と話していた時に100何十年たって、どのように未来の子供たちに贈るものにするかということだよなと、それは実は人づくりということだ。こうやって議論して建物を残すんだ、人を残すんだということに行きついていこう。文学的にはその言葉は拾えないんですけども、最後のところでそれを書いてもらえると、後々仕事になりやすいという気はしています。

江面委員長)

僕の話を読ませていただくと、文化庁にいたときも大学で歴史学をやっているときも、歴史学って何の意味があるのか、文化庁に入ったときも文化財って何の意味があるのと、常に考えてきた。色々と読んでいくうちに最終的には人をどうするか、人間に帰結すべきか、そういうところに行きついて、いろんな精神的向上とか、難しいことがあるんだけど、一般の人にもクリーンに分かる、象徴的な言葉を色々と考えたんだけど、やはり人づくりに行き着いた。地域づくりも観光も同様だ。地域づくりも地域を作るとは、何を作るかというところだ。地域がどうなればよいのかというところだ。地域の活性化とは、何ををもって活性化させるのかというところだけれども、それは抽象的なものであるわけではない。最終的には人が活性化する、頑張る、腰原さんの言われたように滅茶苦茶に頑張るとか、人間が滅茶苦茶にエネルギーを持って物事に接することができるということだ。文化財も、歴史も実証的にいつ頃、何ができたということが学者の仕事だが、歴史とは一般の人にどういう意味があるのか、単なる年表を作ることではない、やはり過去からの歴史的な流れがあって、その流れを確実に理解するために歴史がある。よく時計で話すが、時計には材質とかデザインとか色々ある、例えば親父の形見だという全く違った価値観もある。それは歴史性を持っている。単なる物の価値、機能とかでなく人間との関わりの中で認めていくということ。そういうことが大事だ。そういう物の価値を理解できるような能力も必要だと思う。機能とデザインだけでなく、親父の形見という価値観、それは文化、歴史的意味を持っていると思う。そういうものを理解する能力、街づくりをするにしても機能的に街をつくること、都市計画と呼ばれてきたけれども単に便利で美しい街づくりだけではなく、歴史的意味を未来に反映できるようなことも大事だと思うし、これからそういう能力や感覚、考え方、思想を次の世代に作っていくことがあって、文化財というものが作っていく。難しいことだが、何をすべきかを常に考えるにあたって、分からなくなるのは観光だとか活性化だとかに落ちてしまうのだが、大事なものは人間にどう帰結するかというところを考えなくてはいけないと思って人づくりの話にしている。

山崎 樹委員)

今、岡山市内の千日前の表町商店街で映画を作ろうとしている。岡山市の依頼で作るんですが、この街の歴史を調べていて、戦争であるの帯は大空襲で焼けて、物が残っていない。岡山市のいびつさみたいなものを僕は感じているのですが、目に見える形のもものが終戦以前のもものが全くないんです。そういう地域もある。ここには空襲も無かったので、残っているという100年前の見えるものが残っているか、残っていないか、地震とか災害が日本は多いから、無くなる訳だから、それでも残っているというものをとらまえるような、その感覚が法律になっているのがもったいないと思います。

江面委員長)

それが法律だけではなく、法律はあるのだけれども自主性がないということを経験しているときから感じてきたのだけれども、それをどうにかしなくてはいけないというのが、次の日本の課題であり、同時に世界の問題であり、世界遺産もちゃんと議論されていない。世界遺産には活用がない。不思議なことに保存することしかない。だけどこれからここで議論しているように活用というか、人づくりに対して深みが出るような説明。

山崎 樹委員)

大きな木、何千年とかという木は、その時からある木だから、抽象ではなく具体だ。実際に具体的な建物がある訳だから、そこを分かる人には分かるが、一周回って人づくりという、なんか時間とか歴史を。

江面委員長)

そういう文化財の重みについて少し書く、その次に人づくりですね。

山崎 樹委員)

そのほうがいいと思います。

江面委員長)

少しそういう表現を、だから割とここの文章はすっ飛ばしているんですね、だからかえって分かりづらいかもしれません。そこのところを少し補ってくれたらいいと思います。

山崎 (真由美) さん何かありますか。

山崎 真委員)

さすが役所の人はまとめるのが上手だと思いながら、私に書けと言われてたら大変なんです。若干7の最後のところが分かりにくいように思う。人づくりが大きいテーマとして最後に出てきたが、参考になる例は人づくりに関係あったかなと思いつつ見たのと、要らないかと思うのと、具体的に検討を進めていってほしいとある文書ですが、これだけ読んだのでは、何をどうするのかわからないので、もうちょっと具体的、明確にしていってほしい。建物のか、運営なのか、人づくりなのかを明確にしたほうがいいと感じました。

江面委員長)

そうですね。ここに人と文化について考える契機になると書いてあるが、願っているだけではつまらないので、最後の提言が願っているでは困るので、具体的にどういうことをやっていくのか、道をつくっていくべきかという具体的な提案があるべきだ。これからの検討にあたってというところに。前に市の人には話したが、具体的にはいろいろやっていったほうがいいと、ワークショップもそうだが、大きな一つに最終的にこれが市長に渡された後に、どう使われていくのか、見守る委員会みたいなものがあるといいのではないかと。提言もこれで終わってしまうのではなくて、ああしたらいい、こうしたらいいと、今までせっかく話し合ってきたのだから、ここからそういう委員会みたいなものがあるって、市長がどうするのかわかりませんが、その辺に対して意見をするという、市長もそういう諮問機関をもっているということも大事だと思います。そのようなことを話したんだけど、市のほうで考えるところがあったら話していただけますか。

岡本委員)

人づくりという面で面白いことが起こっている。去年、遷喬小学校の2年生が町に出て、職場の訪問をして発表する場を設けてくれたのですが、職場の人たちを小学校に招いて。その子らが3年生になり担任の先生から電話があったのですが、久世地区の宝物は何かをこの3年生に聞いたら、人であると言ったんです。いろいろ聞いていったらまにワッショイという人たちがいて、また学校に来てもらいたいと言ってくれたみたいだ。実は明日、6年と3年生に、6年生は、まにワッショイがどんな楽しいことをどんな位置づけでやっているかということについて聞きたいということと、3年生はワッショイメンバーが地域をよくするためにどんな活動をしているのかが聞きたいということと、授業にメンバーが行ってこようと思っております。たまたまあそこで活動していることがきっかけで、メインの活動は懐かしの学校給食で、それがいろんなことに派生しているということをお話し

合っているんで、やはりあそこで活動できていることが、訴えること、インパクトが大きくなっているのか、そういうエピソードがありました。

江面委員長)

すごいことですね。恐らく子供なりに感じるものがあるのかなと思います。どこかにファシリテーターがいてこんなふうと言えというのではなく、子供なりに何か感じている。文化財もよく、子供、小学生には分からないと言ったりするが、子供は大人と全然違った感じ方をする、それでいいのであって3年生で、そこまで言えて感じることに、ワッショイもすごい3年生もすごいと思う。ワッショイも何もないところではできないわけで、旧遷喬があったからこそできた、そういう風にして、あれが核になっていき、いろんな人が学んでいくきっかけになればいい。素晴らしいことだ。

岡本委員)

僕らは何かやってやろうという熱いものを持たないようにしようと言っているが、とりあえず楽しんでる姿を見せようという所だけだと思います。重く考えていないです。

腰原委員)

入りたいという人はいなかったですか。

岡本委員)

いるんです。大人になったら入りたいという子供が。入っているんなことをやっている人もいます。

江面委員長)

小学校の部とか作ったらどうですか。

岡本委員)

もうワッショイチルドレンがいます。

江面委員長)

そういう形で文化財は広がっていくのであって、どこかの資料になるだけではつまらない話だ。森上さんご感想でもいいのでお願いできますか。

森上委員)

整備方針案ですが、②と③は工事費が上がるとなっているんですが、どの位上がるのかということを入れたらいいのではないのでしょうか。金額でなくて①に対し何割とかでもいいのではないのでしょうか。

大塚課長)

前回の会議の中で、2割3割上がるということを言っていたので、それを入れさせてもらいます。

江面委員長)

簡単に入れてください。そのほうが分かりやすいと思います。

腰原委員)

道後温泉へ行ってきたんですが、今、正に部分改修中で後ろ半分だけ借り囲いしていて、前半分だけ営業している。そんなに問題なく、あそこはあれがないとどうしようもないので、使いながら改修しているんだけど、ああいうのはこれから話題にはなってくるので、ここではこういう答えになったのはある意味、重荷を与えないためなんですけども、今、色んな所で僕が関わっているのも含めて、封鎖されるのが長いのはきついということが出てきているので、今の費用を踏まえて本来どうあるべきかどうかを考えてみるような余地を入れておいたほうがいいのではないかと思います。

江面委員長)

ちょっと特殊すぎるというか、これが。突然これが出てくるというか、もう少し①、②、③と分ける必要があって、こういう流れ、考え方があってもう少し大きく書いてもらったほうがいいのかと思います。ちょっと具体化しすぎるというか、割突すぎるというか。これが表に出るにはまずいかもしれないが、市長へ届けるのならこれでもいいかなとも思ったりしますが。もう少しまとめていただけますか。

清水委員)

いくつかテクニカルな話だが、市長に提言すると同時に市民もこれを見る、或いはいろんな人たちがこれを見るので、少し分かりやすく端的に表現されたらいいのかと思う、検討の経緯とワークショップの中身は別紙にしておき、1の提言に当たっては、検討委員会をやりこんなワークショップをやりましたとし、中身については別紙とし、検討委員会とワークショップを踏まえて、委員会としてはこういう基本的な考え方を整理しましたとし、3番に入り、その基本的考え方を踏まえて保存、整備についてはこうしたい、活用についてはこうしたいということ、端的に整理されたほうがいいのではないかと。問題はこれからの検討に当たっては、先程、座長も見守る委員会の設置だとか具体的な話が出ていたが、ここはそれなりに書いておいたほうがいいのかと思う。この提言で終わりではないと。正にまだまだ土壌づくりができていないと、まだ議論が煮詰まっていないと、具体的には例えば、座長が言われるような見守る委員会を築きあっていくんだとか、或いは市民主体のワークショップをこれからこういう風で開催していくんだと、或いは具体的に意識の醸成をするために、まにワッショイを中心にこういうことをやっていく、手伝っていくんだという具体的なところを、これからの検討に入れておいたほうがいいのか。具体的な使い方については、旧遷喬尋常小学校という文化財を媒介として、これを通して住民を精神的に豊かにする、豊かな心持ちにしていく、そういった趣旨がここに貫かれているんですが、具体的なやり方というのはできるだけ旧遷喬尋常小学校に多くの住民に来ていただく、単に見るだけでなく使っていただくということが不可欠ではないかと、その中で観光客もそこに来る、今の観光は住民と触れ合いたいです。住民が葛藤しているところに参加したい。登米の小学校も、私も関わってきているが、資料館を作って、静態的で活動が見えてこないから、住民にとっても外の人にとっても、文化財があるらしいねと終わっており、具体的に利用者が少なくなっている。意地でもいろんな人たちに、ここで参画をしてもらって、そこに来訪者を嘯ませることをしていく、そういう推進主体になるべき、例えば真庭観光局、ワッショイを一般社団法人にして、そういう事務局を置いておき、そこで色々なことをやっていくことが不可欠だと思う。それを広げていくためには、ここに関わる色々な層の人たちが入ってきて、色々な議論が巻き起こる、或いは悩みをお互いが出し合うことで解決する場となる。エスパスも含めここは真庭のへそにすべきである。人が集まる拠点があると思っている。みんな縦割りで作っているから、横のつながりが無い、つなげる場として国際協力協会とか何とか協会とか皆入ってもらった方がいい、そこで横につながりながら議論して、そこにやる気のある人たちが関わってくるといい。明後日やるギネスへの挑戦でも恒常的にこのグラウンドでやるんだという仕組みにしていかないと、一過性のイベントで終わったらもったいないと思う。前にも話したが八戸のはっち(八戸ポータブルミュージアム)みたいに、アフタースクール小学生も、社会人教育を受ける人たちも観光客も、モノづくりの学校も含めみんなそこにある、いわば八戸の核が出来上がったんですが、そんな形のものを作られたらいいのではないかと思います。

江面委員長)

ありがとうございます。ものすごく良い提案です。ある意味真庭の中心にしていく、真庭のへそと言われていましたが、そのための仕組みもエスパスに色んな協会を集めたり、真庭を構成していく中心を近辺に集めていく、精神的だけでなく機能的にも中心にしていく、僕の関連ですが町には、昔、家には床の間があった、今はだんだんなくなっているが。次と次の間があって、床の間が上であり、他が下となる、常に床の間のある部屋は上であり、他は下であるという秩序感覚を持っていた。僕はその感覚を家だけが持つのではなくて、町にも床の間があるべきだと思う。常に自分たちが意識でき、岡山では本来は岡山城があり、大きな神社仏閣がそれになると思う。今、清水先生が言われたようにある時期、近代化というのがあり、平準化があり、明治以降の日本の政策だった。これが大きく間違っていたと20年ぐらい前だったか、都市再生化という会議があったときに僕も文化庁から出席したが、これからは平準化ではなくて個性的な町を作っていくように変わっていった。町のあるべき姿として、その中心となる目で見ても、精神的にも中心だというものを作っていくことは極めて町づくりの中で大事だ。国土交通省もそういうふうに、全国一律同じような、北海道でも沖縄でも同じ生活ができるというような方向性は持っていない。個性的なという意味でも中心となるものを作っていく、それには清水先生が言われるように正にここがいいのではないかと思います、副市長いかがでしょうか。

吉永副市長)

正にそういうことだと思っている。タウンセンターという発想があり、そこに行くとなんでも人が集まる場所という、市役所がそうあってほしいと行政が思っているのですが、本当はいいんでしょうね、こういう形で人が集まる、郵便局がはいっていい。そういう形が未来の形だと思う。

岡本委員)

観光局がここにあるのはいいと思う。

吉永委員)

それもいいし、蒜山もいい。

江面委員長)

具体的に、精神的中心というの具体的なものも一体化していくようにしないと意味を持たない時代になっていっている。ぜひそうしていただきたいのと、他にはない、これを中心に作っていき、最終的にここを落としどころに、それと委員会として市長に意見するのでなく、一緒に考える組織、ワークショップも続けていかななくてはいけないし、意見を交換できる何かを作っていかななくてはいけないかとも思う。

清水委員)

くれぐれも縦割りで考えるのはやめたほうがいい。これは教育委員会の補助金であって、教育委員会で考える、教育委員会でワークショップをやるんだと、長井市が有形文化財の耐震補強で8億円使った。教育委員会が8億円使ったんだからちゃんと利活用しろと、結局、指定管理で東京の業者に全部任せてしまった。業者は必死で英会話スクールだなんだとやっている。全く保全の目的である、市民を巻き込んでの市民の文化力の向上などの意味合いが極めて表層的になった。長井の市長にやり直そうと通告してあげた。そういうようなことにならないようくれぐれもよろしくお願ひしたい。

江面委員長)

縦割りは、行政に言われる厳しい言葉だが国の制度も、教育委員会だけでは無理だ。建設とか観光とか都市計画とかが連携しないと扱っていけない。課題も大きくなっているし、結果もそれだけ大きなものになりつつある。全権でやる時も教育委員会を超える枠を作っていたら、そういうこともやってきた。今回の委員会もそういう意味付けを持ってもらいたい。ここに集まっている人も、今は教育委員会かもしれないが建設とか観光とか都市計画とかに入ってもらって、次の段階はそういう形にしていだければと思います。腰原先生いかがですか。

腰原委員)

ずっと考えるのは苦手なほうなので、やるならやってみよう、試していいからやってみようというのがないと。失敗するにしても、さっきのワークショップもそうだが取り組んでみて失敗したら失敗したでいいと思う。僕らは色んな所で見ているから、それやっても失敗すると分かるんだけど、最近分かったが自分で失敗しないと身に沁みない。僕らの役割は、失敗するけど1回やらせてあげて、失敗したというのも大事だと思う。考えて失敗しないようなことやりましょうというよりは、1個ずつやっていくのがいいんじゃないかと思う。そういう意味で建物も、こういう時代の建物は明確でないの、これを改修しましょうという価値観づくりも結構大事なんです。なので、工事を先延ばし先延ばしではなくてどこかで動き始めないと、動き始めた瞬間にすぐできるという話でもないの、今、提言としては全面という話をしてはいますが、考える時間、突然始まるということになりかねない。ソフトの話は盛り上がったが、ハードの話にもたくさんハードルがあると思うのと、一方でこれぐらいな費用でこれぐらいな期間がかかると今の状況でそうなので、来年、再来年となれば事情が変わっているかもしれないので、ウォッチしておくのとどこかでスタートをするというのをやらないとズルズル行ってしまうような気がしますので、ぜひそちらのハードの話も考えていただきたい。

江面委員長)

ハードの方だと文化財だと他のところで失敗しても、文化財だとだめになってしまうのでそこだけは気をつけてもらいたいです。だいたい意見が煮詰まったところで終わってしまうのは残念ですが、山崎さんあればぜひ。

山崎 樹委員)

なんかいいなと思って、まとめるのは見えないところもあるかもしれないけども、文化財一つ取ってこれだけ文化であったり、継続的に話していくのは良くて、芸術、映画、舞台、演劇であったり、活用であっても機会の平等がない地域、どうやって市民、子供たちに鑑賞機会をとというようなことを考えているので、文化ですが芸術でもこういうことをやっていくにはどうしたらいいか考えていて、旧遷喬があったので文化はいいなと考えています。別件ですが。

江面委員長)

ぜひ考えてみてください。今聞いていて、芸術はさんざん議論されてきてどうすべきか、何のためとか、本もいっぱい出ているし、山崎さんの話でも芸術も文化財から学べるというが、逆に芸術はこれだけあって、文化財も一緒だと思っているんです。だけど文化財は議論が全然されていない。そういう意味で何たるものかと。芸術の考え方から学ばなければならぬと思っていただけでも、この議論を芸術にという、こういうことも出てくるのかとも思い、いいことだと思います。

岡本委員)

映画作りますか、改修物語。

山崎 樹委員)

それはだれか他の方に。

江面委員長)

事務局は何かありませんか。

澤山部長)

生活環境部長 澤山と申します。今回いただいた提言を元に来年度以降、改修に向けて話を進めていかななくてはならないという思いであります。皆さんのおっしゃられたようにいかに関わっていく人を増やしていくか、これから来年度以降、一番のポイントになると思います。工事自体についてはタイミングもあると思いますし、久世の中心部で都市計画区域内でありますので、事務局側のメンバー以外にも関係してくると思いますし、清水先生からも縦割りにならないよというところも十分注意して、今現在も事務局は市長部局のスポーツ・文化振興課が持っていますが、教育委員会生涯学習課も同席してタッグを組んで、横の連携を取りながらやっておりますので、今後も町づくりの部分も含め広いところで話を進めながら、具体化する方向で進めていかななくてはいけないと考えています。精一杯、大事なものを100年前の人から100年先の人へ繋いでいくことができるかと肝に銘じて頑張っていきたいと思っています。

江面委員長)

他のところでもやってもらったことがあるんですが、教育長とか副市長を中心にして市の関係部局が集まるものを月に1回やってもらうというのもあったんで、ぜひ遷喬についても副市長を中心に集まって考えることを考えていただきたい。ではありがとうございます。司会をお返しします。

大塚課長)

提言書につきまして多くの意見をいただきました、一応、今日が最終と思っております、今後、提言書を直すのですが、会長とこちらとで詰めさせていただいて、それを皆様にお送りして確認いただき、直しがあれば繰り返しになるかもしれませんが、まず会長とこちらで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(委員同意)

それでは、副会長が欠席ですので、会長、ご挨拶いただけますか。

江面委員長)

僕はさっき言いました。岡本さんいかがですか。

岡本委員)

ご指名ありがとうございます。7回にわたり皆さんとお話しさせていただいたこと、嬉しくありがたく思っています。この町にこれが残ってくれていたということが、この町に生まれ育ち、学校に通ったものとして本当にありがたかったんだと改めて思いましたし、そこを核にまた町が動きそうだというのを肌で感じる事ができた7回だったと思います。これで終わってしまうのかと思っていたのですが、見守り隊ができるっていただいたので、皆さんに声が掛かりましたら是非、見守り隊に参加して再び皆さんにお会いできることを希望しています。本当に7回お疲れさまでした。ありがとうございました。

(終了 17:25)